場所　東京都江東区

面積　0.2ha

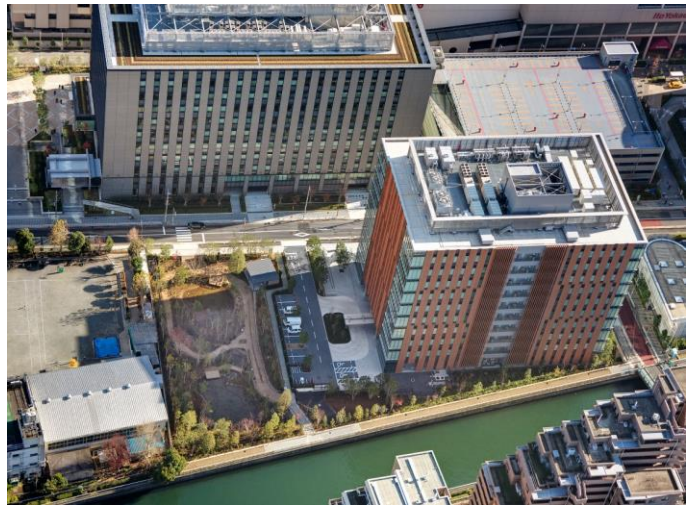
活動目的

ギャザリア区域内で最も自然度の高い場所として設定され、荒川流域圏の潜在的自然環境をモデルに生物多様性を標榜するビオトープを現出する。広域の生物・自然ネットワークの一部として機能し、鑑賞・レクリエーションの場としても活用され、目的に応じた景観を形成する。



サイト概要

2010年11 月に“江戸深川の原風景”を再現することを目指して、荒川流域の在来種を植栽したビオガーデン「フジクラ 木場千年の森」をつくった。「フジクラ 木場千年の森」は野生生物を優先に考えたビオトープ部分と、人も楽しんでくつろげるガーデン部分で構成されている。2 つの池と小川を中心とした緑地には、スダジイやシラカシ、コナラなど 70 種類に及ぶ在来樹木のほか、水草を含めた多くの草本が植栽され、豊かな森を再現している。



土地利用の変遷

大正初期に造成された埋立地であり、1919年（大正８年）よりフジクラ深川工場が稼働した。
1992年に工場が転出したことに伴い、1998年より再開発に着手し、2010年11月に敷地の一部をビオガーデンとして開園した。

サイト周辺の環境

本サイト周辺は埋立地が市街化された地域であり、深川ギャザリアでは英国風ガーデン、四季を楽しむ散歩道など多様な緑地空間が創出されている。平久川や仙台堀川など河川を軸に生態系ネットワークを形成しているほか、本サイトの北東約600mの位置に都立木場公園、仙台堀川公園、横十間川親水公園が立地している。

アピールポイント

緑地の管理においては除草剤や殺虫剤を極力使わず、手作業を基本に行うなど生きものに配慮しているため、池や小川にはオイカワ、メダカ、ドジョウ、森にはトンボやチョウなどの様々な昆虫が生息し、カワセミやヒヨドリ、カルガモなど様々な鳥が飛来するなど、多様な生きものの棲みかとなっている。近隣小学校や住民を対象とした生きもの観察会を開催するなど、地域の人と自然を「つなぐ」空間となっている。

生物多様性の価値

価値（4）生態系サービスの提供の場であって、在来種を中心とした多様な動植物種からなる健全な生態系が存する場

【場の概況】

二つの池でゾーンを分けており、平久川に面する上の池周辺は「保護区域」として生物の生息環境の創出を図っている。道路に面する下の池周辺は「開放区域」として人々が散策や鑑賞を楽しめる空間を整備しているほか、東京農業大学院、武蔵野大学、大正大学等の教育関係者や学生が研修や研究に利用している。

管理ヤードの畑では近隣の保育園・幼稚園児を対象に、さつま芋収穫イベントと併せて環境教育を行っている。

【主な植生】

主な植生は以下のとおりである。いずれも植栽されたものである。

上の池周辺：アラカシ、シラカシ、スダジイ、タブノキなどの常緑樹

下の池周辺：イヌシデ、イロハモミジ、エノキ、コナラなどの落葉樹

【確認された主な動植物など】

本サイトでは約110種の植物、約20種の鳥類、約60種の昆虫類、7種の魚類が確認されている。なお、植物は関東産の在来種を育成している植木業者から調達し、魚類は荒川水系の河川で網、釣竿で採取した在来生物を導入している。魚類は開園時の放流以来13年間そのままであり、園内で繁殖が繰り返されていると考えられる。主な種は以下のとおりである。

鳥類：カワセミ（Alcedo atthis、成体）、キジバト（Streptopelia orientalis、成体）、カルガモ（Anas zonorhyncha、成体）、ヒヨドリ（Hypsipetes amaurotis、成体）、ジョウビタキ（Phoenicurus auroreus、成体）

昆虫類：アゲハ（Papilio xuthus、成体）、イチモンジセセリ（Parnara guttata guttata、成体）、ギンヤンマ（Anax parthenope julius、成体）、シオカラトンボ（Orthetrum albistylum speciosum、成体）、ショウジョウトンボ（Crocothemis servilia mariannae、成体）、アブラゼミ（Graptopsaltria nigrofuscata、成体）

魚類：オイカワ（Zacco platypus、成体）、タモロコ（Gnathopogon elongatus elongatus、成体）、モツゴ（Pseudorasbora parva、成体）、ギンブナ（Carassius auratus langsdorfii、成体）



写真の説明：さつま芋堀イベント時における啓蒙



写真の説明：東京農業大学院・武蔵野大学授業協力

生物多様性の価値

価値（6）希少な動植物種が生息生育している場あるいは生息生育している可能性が高い場

【場の概況】

本サイトでは、2 つの池と小川を中心とした緑地には、スダジイやシラカシ、コナラなど 70 種類に及ぶ在来樹木のほか、水草を含めた多くの草本が植栽され、豊かな森を再現している。
そのため、水辺から樹林までのエコトーンが多種多様な生き物の生息環境を創出しており、ササゴイやゴイサギなどの希少な動物の採餌、休息等の利用が確認される。

【確認された希少種】

本サイトでは、主に池の区域において、東京都レッドリストに掲載された希少種として鳥類5種、昆虫類5種が確認されている。主な種は以下のとおりである。

・ササゴイ（学名：Butorides striata、東京都レッドリストCR）
本種はアジア・アフリカ・南北アメリカ大陸の熱帯から温帯に分布・繁殖し、日本では夏鳥として本州以南に渡来し、繁殖する。本サイトでは夏鳥として飛来した個体が、主な餌である小魚を求めて採餌場として利用している。

・ゴイサギ（学名：Nycticorax nycticorax、東京都レッドリストVU）
本種は主に留鳥で、竹林や水辺の森で他のサギ類とともに集団で営巣する。夜行性で夕方以降に活動することが多く、本サイトでは小魚などの餌を求めて採餌場として利用している。



写真の説明：餌を探すササゴイ


写真の説明：水浴び前に杭の上で水面を眺めるゴイサギ

生物多様性の価値

価値（8）越冬、休息、繁殖、採餌、移動（渡り）など、動物の生活史にとって重要な場

【場の概況】
保護区域である上の池内でカワセミが採餌等を行っている。

【対象となる動物種とその動物種の生活史の内容】
対象となる動物種：カワセミ（学名：Alcedo atthis）。

生活史の内容：サイト内の池や隣接する運河で採餌するほか、繁殖もみられる。



写真の説明：餌を運んで来た父カワセミと集まる子達



写真の説明：母カワセミと集まる子達

サイトの活動計画・モニタリング計画

活動計画の内容	モニタリング計画の内容
＜活動目的＞ ギャザリア区域内で最も自然度の高い場所として設定され、荒川流域圏の潜在的自然環境をモデルに生物多様性を標榜するビオトープを現出する。 ＜活動内容＞ 申請区域を①開放区域、②保護区域に分けて、上述の価値(4)、(6)、(8)の保全に貢献するよう、以下の保全・利用活動を行う。なお、区域の全域に置いて人為に基づかない自然な環境変化に委ねることを主眼とした管理を行う。 ①開放区域：管理にあたっては、回遊性園路の特徴に合わせて、観賞・散策に支障の無いことに留意する。また、鑑賞・レクリエーションの場として活用できるよう、目的に応じた景観を形成する（価値(4)）。 ②保護区域：高い自然度とするため、極力、植物の生育には手を加えない（価値(6)、(8)）。 ※その他の活動：植物類は、当該地の潜在自然植生の回復及び関東在来植物限定を基本とし順応的管理とする。原則として剪定は枯枝や支障枝が中心、自然樹形を維持する。 ＜実施体制、計画の点検・見直し＞ 株式会社フジクラ（不動産事業部門）、株式会社PPMがこれらの活動について仕様を定め、株式会社富士植木が仕様に基づき管理活動を実施。イベント等の活用は株式会社フジクラの従業員が中心となって活動を実施。 本活動計画は毎年の点検で必要に応じ（または、３年毎に必ず）見直しを実施。	**【モニタリング対象】** 植物、鳥類、昆虫類、魚類を対象とする。 **【モニタリング場所】** 本サイト全域 **【モニタリング手法】** 任意観察（目視による直接観察） **【モニタリングの実施時期及び頻度】** 概ね週１回程度で任意観察（目視による直接観察）を実施。 **【モニタリング実施体制】** 当社グループの担当者が中心となって実施。地域の愛好者からの情報提供も一部活用。種の同定については当社の担当（有識者）が確認し、不明の場合は協力会社（株式会社PPM、株式会社富士植木、株式会社地域環境計画）に依頼。